



桑江校長（左）から卒業証書を受け取る卒業生

P734-1

第一学院高等学校盛岡キャンパス（桑江良章校長、生徒140人）の卒業式は8日、盛岡市盛岡駅西通の市民文化ホールで開かれた。22年度の卒業生は53人。転校や不登校など困難を乗り越えた生徒たちは、教師や保護者に見守られ新たな道へ歩き出した。

桑江校長は卒業証書を手渡した後、式辞で「自分の力を惜しみない」と激励した。社会に役立ててほしい。どんな環境に身を置いて、どんな職種に就いてもこれまで皆

# 乗り越えて克己の旅立ち

## 第一学院高校

### 盛岡キャンパス53人が卒業

た。

桑江校長は卒業証書を手渡した後、式辞で「自分の力を惜しみない」と激励した。社会に役立ててほしい。どんな環境に身を置いて、どんな職種に就いてもこれまで皆

それが真実だから。自てくれた。本当にありた」と振り返り、「将来がとう」と思いを伝え、自分自身は介護の道に進むので、そのときに両親や周りで困っている人

奥州市出身の高橋里奈さんが答辞。学校で壇上にあがり、困難との向き合ったときの気持ちや周囲の人への感謝を語り、「ちょっとや周りの人への感謝」と意気込んだ。

大船渡市出身の曾根沙耶佳さんは「3年間というのは入学した当初から、友達ができて日々過していき、3年間にちよっとぐらゐの短さに感じました。早かったです。